

学 界 消 息

1. WMOの会議予定

WMOの会議はつぎのように予定されている。

日 時	場 所	会 議 名
1959年		
9月1日	モントリオール	第2回航空気象委員会
10月7～13日	ストックホルム	C S M観測網作業部会
未 定	ジュネーブ	原子力専門家会議
11月3～17日	ラングーン	第2地区協会第2回会議
11月9～11日	ジュネーブ	I G Y作業部会
11月12～13日	ジュネーブ	人工衛星専門家会議
11月30日～ 12月14日	ナイロビ	熱帯気象シンポジウム
1960年		
6月	リオデ ジャネイロ	第3地区協会第3回会 議
7月2～22日	ジュネーブ	第12回執行委員会
8月16～ 9月3日	ユトレヒト	第3回海上気象委員会
未 定	リスボン又は マドリッド	第6地区協会第3回会 議
1961年		
11月～12月	ニューデリー	第3回測器観測法委員 会

2. 第4次南極隊員さまる

気象庁の発表によれば、気象庁関係の越冬隊員はつぎのとおりである。

越冬隊員：村越 望氏 (33才)

矢田 明氏 (32才)

船上観測班：久我雄四郎氏 (37才) (本学会会員)

山形 忠和氏 (34才) (内定)

気賀沢 実氏 (27才) (内定)

3. 島根県および能登半島に大雨

8月23日島根県石見地方に大雨が降り、浜田市における23日03時の前3時間雨量は148ミリに達した。

また8月25日夜から26日において、能登半島は大雨で、輪島測候所も床上浸水を被り、電源使用不能のため高層観測が不能となった。

4. 昭和基地に大ブリザード

南極昭和基地は、8月7日から8日にかけて、基地初まって以来の大ブリザードに襲われた。7日09時に瞬間最大風速54.5m/sec、10分平均40.6m/sec、7日の平均風速30.6m/secを記録した。建物は振動したが、施設に損害はなかった。

理 事 会 便 り

8月1日(土)に開かれた第16回常任理事会の決議事項は次のとおりです。

1. 数値予報国際シンポジウムに関し、時機その他について特に支障がなければ原案どおり実施する予定であるが、数名の外国学者に目下連絡中で、最後決定は次回理事会で決定することになった。
2. 秋季大会におけるシンポジウム「レーダーの天気予報への利用」の内容は未定であるが、その題目だけを「天気」8月号に掲載し、講演申込用紙は「天気」8月号に綴込むこととなった。(集誌会員には別に送付する)
3. 災害シンポジウムに明大助教授石井素介氏に特別講演を依頼することとなった。
4. 「天気」の論文題目を脚注および別紙に英名を入れることとなった。
5. 気象集誌の投稿および編集規定の一部を次の如く変更し、その改訂の主旨を「天気」に掲載することとなった。

気象集誌投稿および編集規定の一部改訂

- (3)……論文、要報、論文概要および学界記事、消息その他……………
- (7) ページ制限、………原則として論文の長さは図を含め印刷ページで16ページ以内とする。
ただし、内容によっては例外をみとめることがある。要報の長さは印刷ページで4ページ以内とする。
- (8) 論文体裁
 7. ヘッディング(ページ上欄省略題名)および国際十進分類法(U・D・C)は指定する。

注 アンダーラインのところは改訂部分

6. WMOのアジア地区シンポジウムをラングーンで行ない(11月)、次回は日本になりそうであるので題目その他を次回の理事会までに考えることとなった。
7. Van Mieghem 教授から“Beiträge zur Physik der Atmosphäre”に論文掲載方要望があったので「天気」8月号にこの記事をのせることとなった。